

浜松観光ボランティアガイドの会

## 新年を迎えて「Withコロナ！」

～年頭のあいさつ～

浜松観光ボランティアガイドの会 副会長 鈴木猛二（南ブロック）



明けましておめでとうございます。皆様方におかれましてはつつがなく新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日ごろはガイド活動をはじめ、会の各種行事や運営につきましてご協力を頂き、誠にありがとうございます。

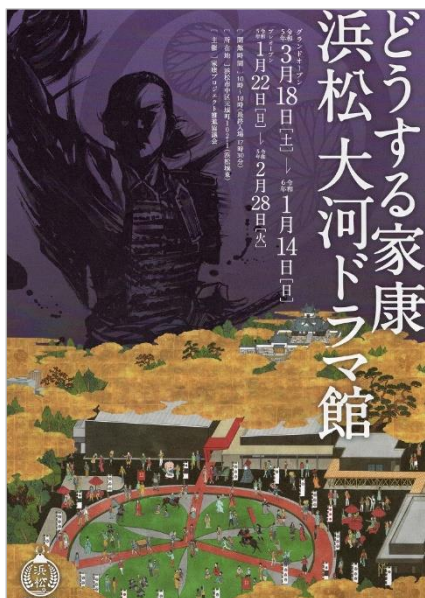
昨年はコロナ禍のなかで、各種行事・ガイド活動にも制約を受け一部イベントが中止されました。ガイド活動については感染防止に留意しながら休止することなく活動を続けることとなり、皆様方には大変ご心配をおかけしまして申し訳ございませんでした。ご協力ありがとうございました。

さて、本年も1月16日から始まる「25期観光ボランティアガイド新人養成講座」を皮切りに「富士山の日記念ウオーク」など様々な事業が計画されていますので、皆様方のご協力とご支援をお願い致します。

また、本年は浜松が舞台となるNHK大河ドラマ「どうする家康」が展開されます。ドラマ館も市の中心部にでき、全国各地より多くのお客様が浜松市にお越しくださるのではないかと期待されています。浜松城をはじめとする4カ所の拠点での私たちの活動は、益々大切なものになると思います。会員一人ひとりが研鑽を積み「おもてなしの心と感謝の心」を持って、お客様をお迎えください。活動についてもお互いに協力しあいながら、健康に留意し「明るく 楽しく やらまいか」の心意気で、浜松観光ボランティアガイドの会の新たな歴史を刻んで参りましょう。

本年もどうぞよろしく願いいたします。

## “どうする家康 浜松大河ドラマ館” オープン



ドラマ館の宣伝チラシ

家康公が築き、天下統一への足掛かりとなった浜松城の浜松出世パークに大河ドラマ館が1月22日(日)にプレオープンします。3月1日(水)から3月17日(金)までは展示入れ替えのため休館して、3月18日(土)にはグランドオープンします。閉館予定の令和6年1月14日(日)までの1年間は大勢の観光客の来浜が期待されます。



浜松出世パークのドラマ館（黒い建物）と浜松城

## 24期フォローアップ研修・懇談会

令和4年12月3日(土)24期生を対象にフォローアップ研修会・懇談会が行われました。

9時に連尺交差点北の**大手門跡**に集合、「秀吉時代の東海道と言われる通りを行く」をテーマに、24期生の参加者12名が鈴木会長、大見副会長の案内で見て回りました。



不空羼索観音石像

像」を見聞、西側の**法林寺**では野口雨情の歌碑、松尾芭蕉が善光寺を詠んだといわれる句碑、清々しい黄菊が供えられた「一石三十三観音」等々を見ることができました。

成子町交差点では、秀吉時代の東海道と江戸時代の東海道が合流した木戸**西番所跡**の説明(東番所跡は木戸町)がありました。

ほぼ1時間半の現地研修の後、懇談会会場の浜松市福祉交流センター5階の多目的室へ向かいました。令和4年7月にリニューアルオープンしたばかりの会場は、事務局スタッフにより既に席札、茶菓子の準備が整い、家康ゆかりの<小豆餅>をほおぼり一息ついてから、春日事務局長の司会で懇談会が始まりました。会長、三役、参加者全員(22名)の自己紹介、24期生からは入会以降活動しての感想が述べられ、活発な意見交換、質疑応答の後、タイムキーパーのエンドベルで予定通り11時50分に閉会しました。

昼からは小春日和になり、オプションで鈴木会長が帰路の東海道沿いにあった**伊藤本陣**、**杉浦本陣**、**中番所**、**問屋等跡地**を案内して、ザザシティ浜松西北の**梅谷本陣跡**前で解散しました。研修を堪能した24期生達は早速ライン交換して各自のガイド活動ツールにしていました。

街中の小さな史跡を多くの人に発信したい!との感想もあり、当日配布された詳しい資料を参考に大河ドラマ館への案内が更により楽しくなりそうです。



懇談会の様子

## 2月23日に富士山の日・記念ウォーク 開催予定

2月23日(木)は富士山の日です。当日に大会主催(静岡県・浜松市共催)の恒例の「富士山の日記念ウォーク」を開催します。今回は「はままつ」に今も残る徳川家康公ゆかりの地<出世への第一歩>を巡るコースです。定員100名を抽選して決めます。受入れ準備に万全の体制で張り切っています。

## 大村真佐夫さん“栄えある瑞宝小綬章”を受賞



令和4年秋の叙勲受章者として、郵便局時代の職務を評価され栄えある瑞宝小綬章を授与され、12月5日(月)にJPタワー名古屋にある日本郵便東海支社において交付式があり瑞宝小綬章の勲記と勲章および略綬を授与されました。

<大村さんの喜びの声>(大村さんは、大会の前会長です)

42年間郵便局に勤務し、浜松西郵便局を最後に退職。この職務に対し名誉ある瑞宝小綬章をいただくことができました。今回の綬章は、公務員としての勤めを果たした結果であり、これも支えていただいた皆様のお陰と感謝しております。

これを機にささやかではありますが、地域に何らかの恩返しが出来たらと考えております。

広報部 杉山太一(東ブロック)



## 徳川十六将ってどんな人（内六将について）



### 酒井左衛門尉忠次

1527年徳川の前身である松平の譜代家臣・酒井忠親の次男として三河国に生まれる。家康より16歳年長。家康家臣の筆頭・第一の功臣。四天王の一人。竹千代（家康）の今川の人質時代の守役・教育係として同行。三河一向一揆では、家康に従い一揆を鎮圧した。東三河の総責任者となる。46歳三方ヶ原の戦いでは右翼を担当するが、家康命を捨てる覚悟でいたのを諫め、城に無事逃げ戻らせる。門を開かせ櫓の上で太鼓を叩き武田軍の城攻めをくいどめた「酒井の太鼓」の逸話がある。1579年信長の命により家康の嫡男・信康の自刃の件で安土城に赴き信長に詰問されるが、十分に弁護できず信康の切腹をくい止めることが出来なかった。70歳京都桜井屋敷で死去。



### 本多平八郎忠勝

1548年本多忠高の長男として三河国に誕生、家康より6歳年下。榊原康政と同年齢。戦いの時、三名槍の一つ「蜻蛉切」を自由自在に振り回し手柄を立て敵方に恐れられた。57回の戦場に出たが1度たりとも傷を負わなかった。1549年父親の忠高は安祥城の攻囲戦で22歳の若さで討死し、叔父の本多忠真のもとで育った。四天王の一人。25歳の時、一言坂の戦いで本体を遮る武田軍の前に馬を乗り入れ愛槍の「蜻蛉切」で何度も敵中に突入し奮戦、この間に徳川軍全員天竜川を渡ることができた。家康は、忠勝を「我が家の良勝」と褒めたたえる。



### 榊原小平太康政

1548年榊原長政の次男として三河国上野郷に生まれる。家康より6歳年下。29歳「旗本先手役」に抜擢され旗本部隊の将として活躍をする。四天王の一人。49歳小牧・長久手の戦いでは、敵方の意気をくじくため得意の能筆を活かして、秀吉に従う者は人の道に背く恩知らずというような檄文を敵味方の将に配った。檄文を見た秀吉が「康政の首をとれ」と怒り賞金を懸けた。51歳家康と秀吉の和解が成立後、秀吉の異父妹の朝日姫が家康の正室として浜松城に興入れする時、康政邸で休息したという手紙を見て、康政の忠義に大いに感服した。59歳館林城中で亡くなる。



### 井伊兵部少輔直政

1561年遠江国井伊谷に誕生。今川氏により2歳の時、父・直親が殺害され直政の命も狙われるため鳳来寺に匿われる。その後、母親が家康家臣の松下源太郎清景と再婚、直政も松下虎松と名乗る。15歳の時、家康公鷹狩の際、お目見えし家臣として仕える。22歳で元服し井伊直政と名乗る。譜代大名の筆頭として、江戸幕府を支えた。四天王の一人。

1600年40歳の時、関ヶ原の戦いで「赤備え隊」を駆使して大いに見せつけたが島津隊を深追いして2か所鉄砲創を受ける。1601年近江国佐和山城と18万石を賜る。1602年彦根城築城途中で佐和山城にて42歳で死去。



### 内藤四郎左衛門正成

1528年内藤甚五左衛門忠郷の次男として誕生。内藤家は弓の名手を輩出する家柄。正成はその中でも「軍神四郎左兵右衛門」と畏敬された。16歳小豆坂の戦いで才能を発揮。織田信秀の城下攻めに、槍で攻撃し高名を挙げる。37歳の時、一向一揆の戦いにて弓矢で奮戦、石川数正これを見て「正成が軍忠は他に類なき事忘れることなかれ」と評する。

46歳三方ヶ原の戦いでは長男を失いながらも奮戦、高天神城の戦いでも敵の武田軍からも射力を恐れられた強弓の武者者だった。関ヶ原の戦い後、家康より埼玉の地5,000石を賜る。



### 渡辺半蔵守綱

1541年三河国額田郡浦部村に誕生、家康と同年齢。16歳今川氏の人質時代に家康に仕える。21歳三河国八幡の戦いで今川勢と何度も戦い、そのたび槍で奮戦し、人々から「槍の半蔵」と呼ばれる様になった。30歳三方ヶ原の戦いで先鋒を務め、退いた後浜松城の元目口にて侵入してくる武田軍を槍で突き付し侵入を防いだ。名古屋にて79歳で死去。

## 南ブロック研修会 浜松市博物館と寺院巡り



会議室で受講中

11月29日(火)街路樹も色付き始めた晩秋の蜷塚周辺を南ブロックで散策・研修しました。17名の参加でした。

博物館に9時集合。こちらの会議室で博物館の鈴木京太郎さんより「浜松の歴史と文化遺産～旧石器時代から古墳時代を中心に～」と題して、約1時間お話いただきました。

かつて貝塚と習った蜷塚遺跡は、とても暮らしやすい場所だったようで、その恩恵もありこちらの縄文時代は何と1000年も続いたそうです。狩猟は猪より鹿が多く6

～7割で、うさぎ・狸が1割くらい。木の実を石で砕いた形跡もあり、当時は入り江も近く漁業も盛んだったと思われるとのことでした。お墓もあり、人骨も見ついているそうです。そんな時代もお米が入ってきたことにより、低い土地への移動となり、縄文時代は終焉を迎えたとのことでした。

午後から豪雨の可能性があるととのことで、質問は午後の特別展鑑賞の時にうかがうことにして急ぎ西来院・宗源院に。杉本、岩城2名の研修部員のガイドでお寺の参拝、当時活躍した人達のお墓を研修して、近くのレストランで昼食。西来院の参道はいちょうの落ち葉で敷き詰められていて黄色が目鮮やかでした。

浜松では、ナウマンゾウやワニもいた旧石器時代から、縄文・弥生時代の後は古墳時代と、三方原台地や都田川流域でたくさん古墳等が見つまっているそうで知らないことがいっぱいでした。

午後鑑賞の特別展示「三方ヶ原の戦い450年三方原の戦いと家康伝承」も見事でした。特に「風林火山」の孫氏の旗に皆さん圧倒されたようでした。遠く旧石器時代から今日まで眺めてみますと三方原合戦がつい最近のことのように思われるのも不思議です。



宗源院本堂前にて全員集合

広報部 金原里枝 (南ブロック)

### 12月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。またこの3カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター(浜松駅構内)」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

#### 《浜松城》

4日	日	蒲郡公民館	30名	20日	火	シニア倶楽部浜北	25名
7日	水	中瀬新和会役員	15名	《犀ヶ崖資料館》			
11日	日	不二見地区防災協会	12名	18日	日	クラブツーリズム	13名
12日	月	西伊場福寿会	23名	18日	日	掛川歩こう会有志の会	39名
15日	木	旅行楽遊会	30名	《浜松まつり会館》			
18日	日	刈谷JB会	20名	*団体入場なし			

### はままつ案内人会報 246号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会  
 〒430-0946 浜松市中区元城町100-2 (浜松城内)  
 TEL 053-456-1303  
 メールアドレス mail@hama-svg.jp  
 ホームページ http://www.hama-svg.jp/

はままつ案内人

検索



家康公ゆかりの地